

対面開催
(後日配信あり)
定員：60名

会員参加費
無料
一般参加費
1000円

会場
大阪府立中央図書館
(多目的室)
〒577-0011
東大阪市荒本1-2-1

The Japan Society for Children's Literature in English
英語圏児童文学会 西日本支部 夏の講演会
2024年 6月29日(土) 14:00-16:00

イギリスで始まった絵本の仕事

絵本作家 きたむら さとし さん

20代の初め、1979年に初めてイギリスに渡りました。英語を学びながら生活をしているうちに、ふとアイデアが浮かび、それを言葉と絵にしてみると絵本のようなものが出来ました。それを出版社に送ってみると、思いのほか好意的な反応が返って来ました。そこから、紆余曲折を経て最初の本が出て、作家としての仕事が始まりました。その後、さまざまな出版人や作家たちと出会い、刺激を受けまた啓発されてきました。そんなイギリスの本の世界との関係は四十年以上も経った今も続いています。今回はこんな経緯を含め、絵本を作るということについてお話ししようと思います。



『ぼくはおこった』ハーウィン・オラム文
(評論社, 1996)



『ミリーのすてきなぼうし』
(BL出版, 2009)



1956年東京生まれ。1982年にイギリスで『ぼくはおこった』(ハーウィン・オラム文 評論社 1996年)でデビューし、イギリスの新人絵本作家に与えられるマザーグース賞を受賞。日本では、絵本に『ぼん賞特別賞』を受賞。『ミリーのすてきなぼうし』(BL出版 2009年)は、光村図書の国語の教科書(小学2年生)に採用される。2009年にイギリスから帰国し、2018年より神戸市在住。『ことばとふたり』(ジョン・エガード文 岩波書店 2022年)で産経児童出版文化賞翻訳作品賞を受賞。詩人のエガードの作品の多くの挿絵を手がける。柴田元幸責任編集雑誌「MONKEY」への寄稿や、「朝日新聞」の「悩みのつぼ」のイラストレーションなど、子どもの本のみでなく、幅広い活動を行っている。「ぞうのエルマー」シリーズ(デビッド・マッキー作 BL出版)の翻訳も手がける。ペンの先からあふれるぴりっとスパイスの利いたユーモアが多くのファンを魅了している。

申込期限：2024年6月26日(水)

詳細・申込：Peachix にて→



問い合わせ：e-メールにて→



主催：英語圏児童文学会西日本支部
共催：大阪国際児童文学振興財団

